# 重点プロジェクト報告（R7年度分）

“NIFS NEXT 30”アクションプランVer.1における取組：スポーツ・武道の新たな文化的価値を創造する国際スポーツ・武道研究の推進【R7～R8】

## Ⅰ.プロジェクト概要

“NIFS NEXT 30”アクションプランVer.1の「研究」「国際化」のミッションで計画されているスポーツ・武道の新たな文化的価値の創造やスポーツ・インテグリティ推進の国際的な取組と課題に関する研究成果を発信する取組の一環として、本プロジェクトでは、過去２年間のプロジェクトの成果を更に発展させるために、スポーツ・インテグリティに関する国際シンポジウム、破魔投げ大会及び国際武道ツーリズムを実施した。※当初予定していた郷中教育フォーラムは予算措置がなかったため未実施とした。

## Ⅱ.事業実績

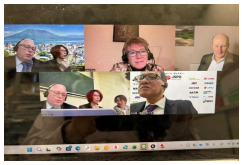
### 1.学長杯破魔投げ大会

蒼天祭（令和７年11月1日（土））時に鹿児島市破魔投げ保存会と共催で第25回学長杯破魔投げ大会を開催した。６チーム（41名）が参加し、優勝は体大学生チーム、準優勝は鹿屋吟詠会チームであった。当日は鹿屋市内の小学生や本学の留学生も参加し世代や国境を越えて薩摩の伝統遊戯である破魔投げを体験した。



### 2.国際シンポジウム

令和８年２月２日（月）に「日本におけるコーチングと連携した子ども保護（セーフガーディング）制度構築に関するシンポジウム」をハイブリッド形式で開催。英国からの研究者等を招聘し106名が参加。英国やIOCのセーフガーデングに関する先進的な知見を共有した。（科研費の経費で実施した）





### 3.国際武道ツーリズム①(なぎなた体験)

令和８年１月１３日（火）午後に韓国の特成女子大学の学生１５名が来学し、鹿児島県なぎなた連盟前理事長の平山悦子氏及び本学なぎなた部員の指導の下で、なぎなたの体験をした。「楽しかった」という感想や次年度もなぎなたの体験の機会を設けてほしいとの要望があった。



### 4.国際武道ツーリズム②

令和８年２月14日（土）の午後に鹿児島県国際交流センターの居住する外国人１４名、日本人２名並びに本学の大学院留学生２名の合計１８名が、相撲の見学・体験、柔道・なぎなた、茶道・書道の日本文化を体験した。「日本の伝統文化としての武道の魅力や地域活性化や国際交流の可能性についても理解を深めることができた」との感想が聞かれた。












（山田撮影）

## Ⅲ.事業実施の成果（山田撮影）

１．国際シンポジウムは、国内の制度構築への重要な基盤形成となった。
２．破魔投げ大会や武道ツーリズムを通じ、スポーツ・武道の文化的価値の再評価、地域文化資源としての活用可能性を示した。
３．国際武道ツーリズムを通じて、武道を媒介とした教育・観光・地域振興の新たなモデルを示した。

## Ⅳ.論文・学会発表等※成果の一部を抜粋

| 年度 | 発表者 | タイトル | 学会発表・出版物 |
|---|---|---|---|
| 2025 | 森克己 | 子どものスポーツ権保障の観点から | 日本スポーツ法学会年報第32号、pp.220-237 |
| 2025 | 成田文庫記念論集刊行会 | スポーツ文化研究のシナジー―体育・スポーツの新たなステージへの展望. | 山田理恵（編集および論文執筆）、森克己（編集および論文執筆） |
| 2025 | 森克己・山田理恵 | イギリススポーツ団体における子どもの意見表明権実現のための試みとセーフガーディングにおける意義について | 日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会スポーツ人類学専門領域 |
| 2026 | 森克己 | SSI Kari Fasting International Research Award | 2026年５月25日から27日にかけてケープタウンで開催された、Safe Sport International 2026 Conferenceにおいて、本プロジェクト代表の森克己が、日本人研究者として初めて受賞した。 |

## Ⅴ.今後の事業の展望

１．スポーツ・インテグリティ研究の深化と制度構築への貢献
２．武道ツーリズムの体系化と国際教育プログラム化
３．地域文化資源としての破魔投げの継承と発信
４．大学の国際化推進と地域連携の強化

プロジェクトメンバー：森克己、国重徹、小澤雄二、竹中健太郎、中村勇、小崎亮輔、大城戸知、研究協力：山田理恵